

# 北九州憲法ネットニュース

発行 9条の会・北九州憲法ネット 2017年9月28日 第98号  
TEL592-5000 fax 571-4346  
803-0817 北九州市小倉北区田町13番21号田町ビル3F  
URL⇒<http://kitaq-kenpou.net/>

## 第9条

戦争の放棄、戦力の不保持、交戦権の否認

日本国民は正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

② 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

## 安倍「9条改憲」をストップしよう！

9条の会・北九州憲法ネット代表世話人座長  
荒牧啓一

「平成」の時代が、平成31年4月30日で終わることが決まりました。この日に天皇が退位されることが決まったからです(12月8日閣議決定)。

今後、「平成」はどんな時代だったのか、メディアなどで特集が組まれることでしょう。

「平成」の時代はバブル景気から始まり、バブルの崩壊、その後は長期間の経済の低迷、リーマンショック、貧困と格差の広がり、そして、現在は「株は世界同時好況」。

神戸阪神大震災、東日本大震災・原発事故、北部九州豪雨など等、自然の驚異も実感した時代でした。

平成の歴代総理は、次の通りです。竹下登、宇野宗佑、海部俊樹、宮沢喜一、細川、羽田孜、村山富一、橋本龍太、小渕恵三、森喜朗、小泉純一郎、安倍晋三、福田康夫、麻生太郎、鳩山由紀夫、菅直人、野田佳彦、安倍晋三。何人思い出しますか？

今年、日本国憲法は、施行されて70年を迎えました。人間でいえば、古稀になります。それはひとえにこの憲法の改悪を阻止し、この憲法を活かそうとする多くの国民の不断の努力によるものです。ところが、同時に、この節目の年に日本国憲法は重大な危機に見舞われています。

安倍首相は、2006年9月、「戦後レジームからの脱却」「任期内での改憲」を掲げて登場しました。そして、**教育基本法を改悪**し、そして、今や戦前軍国教育の中心に据えられた教育勅語を道徳教育の教材として使用することを認められています。そして、私たち国民の知る権利を侵害し、必要な情報を得られない状況を作る**特定秘密法**を強行採決。**集団的自衛権**は、憲法9条を変えない限り行使できないという歴代自民政権下



で堅持されてきた憲法の解釈を覆して、**戦争法**を強行しました。まさに「立憲主義」の破壊でした。そして、この戦争法により、自衛隊が世界中どこでも米軍と共同して戦争ができる国への道を開いたのです。その上、**共謀罪**をも強行しました。これは、私たち一般市民の日常生活に深く、ひそやかに侵入し、思想・良心の自由やプライバシー権を脅かすものです。

そして、安倍首相は、今年の5月3日に、日本会議の改憲集会と読売新聞紙上で、憲法9条について、1項、2項はそのままにして、3項を加えて自衛隊の存在を明記する、その他高等教育の無償化についても改憲したい、そして、2020年には「新しい憲法」を施行したいとまで述べました。

その後、東京都議選で自民党は歴史的な大敗をして、安倍内閣の支持率も低迷し、8月の内閣改造後の記者会見では「スケジュールありきではない」と若干の軌道修正はしましたが、9月の「国

難解散」で、小選挙区制度と小池・前原氏による野党分断により、大勝すると、来年春には憲法改正案を発議する、などと言い出しています。

最近の北朝鮮問題などで、自衛隊の存在に対して国民の多数が容認する傾向にあります。近年の世論調査では、国民の90%が自衛隊に対してよい印象を持っているということも安倍「9条改憲」の背景にあります。只、この数字は、自衛隊の災害派遣などの姿を見てのものですが、自衛隊の存在を容認していることは注意が必要です。

9条1項、2項に3項を加え、自衛隊(上記のように戦争法を前提に)を明記することは、9条を根底から破壊する危険性があります。2項は、一切の戦力の不保持と交戦権の否認を規定しています。今や世界でもトップテンに入る戦力を持っている自衛隊の存在を明記することは、そもそも相容れないものです。2項の空文化につながります。

このことを、自衛隊に好意を持っている多くの

国民に理解してもらうことは簡単ではありません。

憲法改正の発議をさせていけません。国民投票を実現させていけません。

安倍「9条改憲」の危険性を国民の間に広げましょう。

**愛とは「死ね」とは言わぬものだ。もし、われわれに国のために死ねというものが出てきたら、それはわれわれを愛してはいないということを知るべきだ（「太陽はいつも雲の上に」三浦綾子）**



## 北九州憲法共同センター総会に100名が参加 川田忠明講演、大きな感銘を与える

12月2日、小倉のムーブ 5 階で、北九州憲法共同センター第4回総会が開かれました。会場は満席に近い、100名の方が参加しました。



総会議案には、やはり、3000万署名の進め方に議論が集中しました。また、共同センターの加入の条件整理や、運営への注文もいただきました。3000万署名の取組では、戸畑区と門司区での署名推進の実行委員会の結成とその活動が報告され、今後の他地区での取組みの激励となりました。

講演は、川田忠明氏（日本平和委員会常任理事）が、プロジェクターを使いながら、わかりやすく、情勢を話しました。北朝鮮の問題では、まず第一番は、“自分の身を守る”にも、戦争にしてはならないことを、周りの人に訴えることの大切さを川田氏は力説しました。

抑止力は北朝鮮には通用しないこと、外交解決が唯一の道であることも繰り返し言及しました。質疑の中で、北朝鮮の実情もだされました。核やミサイル増強の軍事費に25%の国家財政を使い、このため、国民生活は困窮し、通常の軍備に回す資金もなく、1940年代の飛行機を使っている状況も紹介されました。しかし、北朝鮮やアメリカが情勢を見誤って、戦争を開始すれば、何十万人という規模で、日本、韓国、北朝鮮に犠牲が出、北朝鮮の政権は崩壊して、数百万人の避難民が生まれ、朝鮮半島の復興にはその後数十年の期間、が必要になると言われています。まさに外交での解決以外に道はないことを明らかにしました。

参加者の感想文でも「現在の北朝鮮・中国との問題について、国民が最も不安に思っていること、疑問に思っていることに関わりながら、“憲法が日本の平和を守る”ということに、確信と希望を与えるお話でした。」「今の、北朝鮮の核と、好評の声が多く出ていました。

武装の危機がなくせる事が良く判りました。特に、国連の核廃絶の条約の重要性が納得のいくように話されましたのが良かったです。また、安倍政権の異常が良く判りました。」など

## 憲法随想 真の平和は、対話に基づく信頼の構築で

9条の会北九州憲法ネット代表世話人  
弁護士 後藤 景子

本日、昭和天皇の独白を高須氏が落札したとのニュースを見ました。

「昭和天皇独白録」と呼ばれる回想録は、戦後に米国の要請を受けてまとめられたと考えられています。手書きの記録は、「現人神」とあがめられていた天皇の個人的な戦争責任を回避するため、慎重に書かれたとみられています。

昭和天皇は独白録の中で、戦前、戦中の自らの立場について内閣の決定に抗えない状況だったと振り返り、また、開戦に反対すれば破滅的な内乱が起きるだろうと恐れたと語っているそうです。内部階部から追い詰められた末の戦争だったということなのでしょう。

今、北朝鮮に一層圧力を掛ける方向で安倍政権、米政府は動いています。圧力は、戦争への道だと思います。追い詰めることは、平和構築にはつながりません。

真の恒久平和を実現するためには、対話による信頼関係構築の選択をおこなうべきです。

これが前例となれば、世界の他の戦争地域の和平にも必ず大きな影響を与えることでしょう。信頼関係による平和構築の選択を行うことで、一時的には文化的・経済的に混乱を生むかもしれませんがそれを乗り越えることができたとき、軍事力の必要のなさに気付くのではないのでしょうか。

## 曾根9条の会が北九州市議会に陳情を行いました

### 「安倍内閣に憲法改正案の提出を断念させるよう求める意見書の提出について」

11月10日北九州市議会総務財政委員会にて、安倍政権に対する憲法改悪阻止を求める陳述を行いました。

結果は賛成委員少数のため、意見書提出は否決されました。その陳述全文が地方紙「小倉タイムス」に掲載されたので、参考にしていただき、各市町村議会にも同様の働きかけができればと願っています。このような活動が起こることによって安倍政権が憲法改憲への道を踏みとどまる一つの因となることができればと願っております。

「曾根9条の会」会長 上西 創造



総財政委員会で口頭陳情する上西創造会長



# この部屋から平和は創られる

## 「憲法9条を守る折尾の会」第9回総会報告

去る10月28日(土)、オリオンプラザで総会が開かれました。竹下代表の挨拶、北九州憲法ネット野瀬事務局長のご挨拶、経過報告・会計報告、そして今後の活動方針と役員と事務局体制の了承、質疑応答を得て無事に終了しました。今回は講演がなかったので竹下会長が現在の状況についてお話をされました。その中で、「民主主義とは、国民に真実が知らされて、一人ひとりが権利を行使していくこと」という言葉が深く心に刻まれました。参加者は17名でした。

講演に代えて「憲法を抱きしめて」を上映しました。元米海兵隊員アレン・ネルソンさんは18歳で海兵隊に入隊し、沖縄で訓練を受けました。「日本や他の国の政府は、兵士が平和を守っていると言います。しかし訓練では平和のことなど一切教わりません。日々殺し方を仕込まれるだけでした。Kill!(殺せ)が合言葉でした。」19歳でベトナムの最前線に派遣され、過酷な戦場を生き延びたネルソンさんを襲ったPTSD。そこから彼を救ったのは、戦場での殺人という自分が犯した罪を

認めたこと。そして、日本国憲法第9条との出会い。ネルソンさんの9条に関する珠玉の言葉をご紹介します。

◎ ホテルで9条を読んだとき、立ち上がるほどショックを受けた。信じられなかった。キング牧師の有名な演説「私には夢がある」のような力強い衝撃、これこそ人類が持たねばならないもの。そうしなければ人類は滅んでしまうと思った。

◎ そして9条を読んで気づいたことは、これは国の法律というだけでなく私たちに生きる道を示している。

◎ 世界平和はアメリカから始まるのではありません。国連から始まるのでもありません。ヨーロッパから始まるものでありません。世界平和はここから、この部屋から、私たち一人ひとりからはじまるのです。

最後にカンパのご報告をします。21,900円でした。ご協力ありがとうございました。

## カンパありがとうございます。そして、お願い!

当会は、一貫して、憲法及び9条を学び、守り発展させるため、学習会や講演会、署名活動、街頭宣伝などの諸活動を行ってきました。ニュースの発行は、90号になりました。毎回700人の方にニュースをお送りしたり、手渡ししたりしています。その費用は、当会は会費がないのですべてカンパで賄っています。安倍政権の憲法破壊、立憲主義無視の暴走を阻止する戦いは山場です。しかし、当会の活動資金が枯渇しています。皆さんのお力で当会の活動を支えてください。

振替番号：01700-8-115768 名義：「九条の会・北九州憲法ネット」

**カンパ 9月** 野瀬秀洋 黒坂佳男 河村智重子 小司洋子 **10月** 松川英俊 玉井史太郎 おりお総合法律事務所 井上文子 松井岩美 野瀬秀洋 勝木多美 原野武 山下親 内田ツナオ 高野和夫 渡辺末子 古賀三千人 小林勝利 小林千里 八記博春 浜口紀美子 竹中労 小川由美 鬼塚暇賀津子 佐多道人 **11月** 諸富昭三郎 織田博吉 山本猛雄 広津輝男 黒坂佳男 本島富士子 西妙 有馬和子 **12月** 吉田素子 佐多道人 **メッセージ** ●今度の選挙、改憲勢力をノックアウト。がんばりましょうね。●市民の力で野党共闘を目指そう! 10/6 F. T ●ニュースをずっと送って下さったのに初めての募金です。10/11 E. N ●少しですが。10/17 S. W ●共に頑張りましょう 10/17 K. T ●いつもの少額ですが、よろしく願います。10/30 U. O ●ごろうさます。文部省が発行して学校教育で使用された「あたらしい憲法のはなし」が再び教育現場で使われるようがんばりましょう。11/14 T. Y